

「我々中央総研も、事業承継カウントダウンへ」

昭和60年2月に「山川会計事務所」が、滋賀県湖南市下田で産声を上げました。

爾来35年余、思えば種々のお蔭で、今日を迎えさせていただきました。国家や社会のお蔭、親や師友のお蔭、もちろんお客様や、取引先様のお蔭があり、社員一人一人の献身的な努力のお蔭です。感謝しても、感謝し切れません。

開業10年間は、「資金繰り」お金の問題が中心でした。自己資金も無いままのスタートで、事務所を新築しました。経費は毎月確実に出ていきますが、収益は思うように伸びません。信用も無ければ、実績も無い。実力も将来性も不確実な若造に、会社の大事な財務・税務を、そう簡単に任せてもらえるはずがありません。

今月売れば、来月入金という業種ではありません。契約までに、非常に長い期間を要するのです。その間、入金が無いのですから、運転資金にも事欠く始末です。

背に腹は代えられず、本業以外の、付随業務（積水ハウス様や、外資系生保様からの紹介手数料）を頂き、数年間、何とか凌いでいました。

次の10年間は、ご多分に漏れず「人」の問題です。税理士事務所に働く人は、資格を取りたい。税務や財務の知識を身に付けたい。それが主な動機で、来ています。

私は、人として成長してもらいたい！人格を磨いてほしい！とっていました。

想いに、大きなギャップがありました。口にこそ出しません、社員の目や顔は、私の人生論や仕事観には、完全に拒否反応です。そんなことを学んで、飯が食べられるのか、迂遠に見える私の話を、若い人は受け入れてくれないのです。

非常に悩みました。深く苦悶しました。全国でも有名な、成功している先輩税理士に相談に行きました。その先輩から、「そんなストイックなことで人は付いて来ないよ。もっと、柔軟かく、おだてたり、すかしたりして連れて行くものだよ」と諭されました。帰りの新幹線の中で、自問自答しながら考えました。何度考えても、やはり自分の考え方が正しいはずだ。この道以外には、王道は無いと確信しました。

翌日、10名ほどいた社員の全員が辞めてもいい、と覚悟を決め宣言しました。会計人の最も重要な資質は、人間性であること。古典に学び、師友を持つことであると。全員退職かと思ったら、蓋を開けたら、辞めたのは、1人だけでした。

こういう場面を、何度か繰り返し、少しずつ、私の考えが浸透して来ました。

毎月、経営会議や、先哲の学び、あらゆる機会を捉えて、思いを伝えて来ました。

もちろん、まだ全員が、完全に私の考え方に賛同してくれている訳ではありませんが、大半の社員は、経営理念を腑に落としてくれています。

漸く、安心して”事業承継”することが出来る時期になりました。その間、綿々と伝え続けて、35年かかりました。

社長、事業承継は、大変なエネルギーと覚悟が必要ですね。私自身が実体験しているだけに、社長のご苦勞が痛いほどわかります。

事業承継は、単に、株式や資産の承継、手続きの承継ではありません。

魂の承継です。思いの承継です。最低、10年は、かかります。早すぎることはありません。是非、私どもにご相談下さい。一緒に、解決して参りましょう。



今月のポイント

仕事観は人生観